

「コーチ、太田徹さんがいるのは大きいですね。甘えてはいけないと思いますが、なんとかんだ踏っています」
—太田さんの担当チームは?
「主にJ1-J2を担当されていますが、なまざを通訳していただけのはあります」
—右足を痛めて別メニューで調整していた時期もありましたが、(3月10日から全休)外から見た時のチームの印象は?
「世界トップクラスの選手が揃っていて、レベルの高さを感じます。フランス代表のキャミュー(MF)は、とても上手いです。あとフランスに来て一番の違いを感じたのは、キーパー。日本では普通に入るようなシートも練習に上められちゃう。1対1で前に出でてくるスピードも速いので、そこは慣れていかないと。反面、スキルでは負けない自信がありますね」

練習環境はどうですか?
「東伏見(早稲田大の練習場)では、いつも自由にボールを使えました。が、ここではダメなんです。練習以外でボールに触るなどと言われているのは、少しストレスです。学生時代より練習量が減っちゃうしたら不安です。歩きで練習場に通れる距離なので、本当は好きな時に蹴りたい。日本では居残り練習も評価されますけど、こちらでは短い時間の内でいかに集中してやるかなんでしょう。ただ、リフティングボ



PROFILE おおだてつむり
1980年7月26日生まれ、
神奈川県出身、172cm・59kg、
横須賀シーガルズ→早稲田大
アーリヨン(フランス)、高校
2年(練習場)、同時にMFか
らFWにコンバート。11年の
オーバーシード夏季大会では
1ゴールを決めて大会得点王に輝く。今年1月に入団テストを兼ねてリヨンの練習に
参加し、そこで実力を認められてプロ契約を結ぶ。契約期間は13年3月までの1年半。



1 2月の日本女子代表合宿では、持ち前の機敏的なドリブルでアピールし、練習試合ではゴールも決めた。現状では嬉しいロンドン五輪出場も最後まで諦めない
2 11年のFIFA女子世界選手権のソニア・ポンバストール(右)らが同僚で日本人フィジカルコーチの太田徹さん(左)は、「半ばりかかる」という存在だ

苦しい時間帯に 自ら仕掛けられる選手が 理想ですね。

—2月にはなでしこチャレンジ。
(いわゆる代表予備軍)のメンバーとして、なでしこジャパンとの合同合宿に臨みました。手応えは?

「正直、最初のほうはかなりきつかったです。合宿の直後に出発だったので引け越しの準備とかもあって、ほとんど練習できないまま参加しましたので、少しずつフィットしていく感じはありました。もう少しやつたので、少しずつフィットしていった感じはあります」

—去年のワールドカップは、なにで観てましたか?
「もうファンですね(笑)。「ナショニアルガルベカシブもチニックしば」というのが本音です」

—なでしこジャパン入りも期待されていましたが?
「ワールドカップもチニックになりましたか?」

「ワールドカップもチニックになりましたか?」

「ワールドカップもチニックになりましたか?」

ロンドン五輪のメンバー入りを諦めているわけじゃない。まずはリヨンでなにができるか。それを優先的に考えたいという意味です。なでしこジャパンで通用する部分があると思つ一方で、未熟なところもたくさんありますから、とにかく頑張らない。去年のワールドカップで優勝して、自信を深めているチームに翻って入るには、相当な努力が必要だと思います」

「始めた頃はサイドハーフでした。フォワードをやるようになつたのは、高校に入った後ですね」

—フォワード一筋ですか?
「始めた頃はサイドハーフでした。フォワードをやるようになつたのは、高校に入った後ですね」

—フォワードのポジションは4-2-3-1で、フォワードのポジションはひとつ。ポジション争いはかなり厳しいですね?
「ロッタ(・シリエン/スウェーデン代表FW)は絶対的な存在なので、チャンスはなかなか回ってこないと思います。でも、なでしこのメンバーもいるなかで、大会を出たばかりの私を選んでくれたのは嬉しかったし、責任を感じる。だからこそ、チ

—ロンドン五輪は別としても、次のワールドカップやオリビックでは中心選手として活躍できるよう、リヨンで一步一歩成長したいと思っていました。その過程で、チームの勝利に貢献して、女子チャンピオンズリーグを制したい。去年リヨンが優勝した映像を観て、感動したっていうのが、「これ、私も味わいたい」って素直に思つたのです

—埋怨の選手像は?
「苦しい時間帯に自ら仕掛けられる選手が理想ですね。サッカーは団体競技ですが、最後に個の力がモノを言つて大事な場面で誰にも頼らなければいけない醍醐味があると思うので、そういう時に逃げないで勝負できるようになりたい」

—では最後に、今後の目標を教えてください。
「ロンドン五輪は別としても、次のワールドカップやオリビックでは中心選手として活躍できるよう、リヨンで一步一歩成長したいと思っていました。その過程で、チームの勝利に貢献して、女子チャンピオンズリーグを制したい。去年リヨンが優勝した映像を観て、感動したっていうのが、「これ、私も味わいたい」って素直に思つたのです